

新風会・公明
松山信裕
議員



○ 組織改革について ○ まちづくりについて

その他の質問

・文化財保存活用地域計画について ・障害者雇用環境について

議 ①今回実施する組織機構改革は、過去に例のない大規模な見直しが行われ、現在の18課5局1本部から12課5局1本部に再編し、課の統合を図ること。このたびの機構改革は、どのような趣旨に基づいて行われたのか。

理 ②新規採用職員や若手職員がその職場になじんでいけるように支援している制度であるチューター制度を導入しているかどうか。

理 ①市長部局と教育委員会部局を横断した行政組織機構の改編により、生涯学習と地域づくり、文化財の観光活用などを市長部局内で一本化することで、シンプルで効率的な組織体制へ移行し、事業実施や意思決定の効率化を目的としている。

理 ②現在は、新採用職員の育成のために同じ職場の中堅職員を1名、育成指導者として選出し、市職員としての基礎知識を学ばせているが、チューターと銘打っているが、これとして常に頼ることのできる育成指導者を配置し、普段から気軽に質問や相談できる体制を構築していく。

議 ①これからも地域をよくしたいという熱い思いをジオパークに込めて各遺産の魅力のブラッシュアップを図り、持続可能な地域の発展につながる活動を展開していかねばいけない。

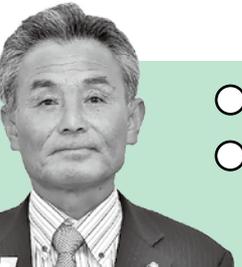
理 今後のジオパークの推進について、市はどのように考えているのか。

理 ②地域づくりとジオパークを進めるために新たな施策を構築していかねばならない。そのためにも助成事業を充実していかなければならぬが、どのような助成事業をどのように進めるのか。

理 ①市内小中学校や市民へのジオパーク学習の取り組みを、高校にも広げていきたい。また、商工文化課として日本遺産や文化財の保護・保全事業とツーリズムといった観光誘客事業とを一体的に取り組んでいく。

理 ②従前からの恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク魅力活用事業の他に、新たに創設する「ここの地域づくり基金」や「わくわくクラウドファンディングイベント応援事業」、「ちょいチャレ応援事業」を活用して取り組んでいただきたい。

新風会・公明
吉田清隆
議員



○ 市営住宅のエレベーター設置について ○ 県立大学新学部開設に伴う勝山市の対応について

その他の質問

・航空写真の活用状況について

議 勝山市営住宅には鉄筋コンクリート造りの建物は何棟もあり、市営住宅1棟には3か所の階段がある。そのうち1か所にエレベーターを設置して高齢者や障害者を優先的に入居できるようにできないか。設置方法にもよるが、1か所あたり数千円かかると思う。

理 階段室型市営住宅1棟の3か所の階段のうち1か所にエレベーターを設置すると、1か所あたり4000〜5000万円の事業費を想定する。後付け設置にはスペースの問題、設置したことによる家賃への反映、電気代の入居者の負担など様々な課題がある。

理 1階部への高齢者の単身世帯の入居ニーズが高いことから、今後の市営住宅の整備方針は、多人数世帯を見込んで計画した3DKを分割して1DKの住戸を2戸とし、1階の入居者数を増やすことで、高齢者世帯に対応した居住環境の整備を進めていく。

また、市営住宅に申し込まれる方のほとんどが60歳以上で、高齢者の優先的入居の判断は困難な状況である。

議 福井県は、今年2月10日に2025年4月に県立大学恐竜学部（仮称）を県立恐竜博物館の隣接地に学部棟を整備すると発表した。入学定員は30人を予定し、2年生の2026年から勝山キャンパスでの受講としているので、2028年度に学生数は90名となり、勝山に住んでくれる学生も多くなることが期待される。

また、県は就職先として、「政策立案・教育・研究分野」「デジタル関連分野」「観光関連分野」「地質関連分野」の4分野を想定している。

勝山市の県立大学恐竜学部（仮称）の受け入れ態勢について伺う。

理 令和4年度中に学生受け入れのためのハードとソフトの両面の環境整備の方向性を固める必要がある。また、県立大学恐竜学部卒業生の就職先として想定している業種の中には、ジオパークや自然関連の観光事業など、勝山市のフィールド活用が期待できる分野が含まれている。既存の観光事業者との連携やワーキングスペースの設置などを検討していく。